

西洋史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 Semester	開講曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
西洋史概論	古代・中世ヨーロッパの 国家と社会	2	浅岡 善治	3	前期 水曜日 3講時	ヨーロッパ史概論
西洋史概論	近現代ヨーロッパの国 家と社会	2	浅岡 善治	4	後期 水曜日 3講時	ヨーロッパ史概論
西洋史基礎講読	英語文献精読	2	有光 秀行	3	前期 火曜日 4講時	ヨーロッパ史基礎講読
西洋史基礎講読	西洋史研究の基礎	2	浅岡 善治	3	前期 水曜日 2講時	ヨーロッパ史基礎講読
西洋史基礎講読	英語文献精読	2	有光 秀行	4	後期 火曜日 4講時	ヨーロッパ史基礎講読
西洋史基礎講読	西洋史研究の基礎	2	浅岡 善治	4	後期 水曜日 2講時	ヨーロッパ史基礎講読
西洋史各論	ウィリアム・マーシャル とその世界	2	有光 秀行	5	前期 水曜日 3講時	ヨーロッパ史各論
西洋史各論	ドイツ司法とナチズム責 任	2	熊野 直樹	集中(5)	集中講義	ヨーロッパ史各論
西洋史各論	中世後期ドイツの政治 と社会－帝国都市ニュ ルンベルクを中心に－	2	阿部 ひろみ	6	後期 金曜日 3講時	ヨーロッパ史各論
西洋史演習	中世ヨーロッパ史研究	2	有光 秀行	5	前期 月曜日 4講時	ヨーロッパ史演習
西洋史演習	ロシア革命の歴史的再 検討	2	浅岡 善治	5	前期 木曜日 2講時	ヨーロッパ史演習
西洋史演習	中世ヨーロッパ史研究	2	有光 秀行	6	後期 月曜日 4講時	ヨーロッパ史演習
西洋史演習	ロシア革命の歴史的再 検討	2	浅岡 善治	6	後期 木曜日 2講時	ヨーロッパ史演習

科目名：西洋史概論／ European and American History (General Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LB33303, 科目ナンバリング：LHM-HIS204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目： 古代・中世ヨーロッパの国家と社会
2. Course Title (授業題目) : State and Society in Ancient/Medieval Europe
3. 授業の目的と概要： 「国家」と「社会」の観点から、前近代ヨーロッパの歴史過程を再検討する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The theme of this course is to reexamine/reconstruct the processes of ancient/medieval European history from a viewpoint of "state" and "society".
5. 学習の到達目標： ・「国家」と「社会」の観点から、西洋古代・中世史の展開過程を把握する
・西洋古代・中世史の知見を元に、諸事象を「歴史的に」捉える思考様式を身につける
6. Learning Goals (学修の到達目標) : ・To grasp the outline of the ancient/medieval European history from a viewpoint of "state" and "society"
・To learn the ability to think "historically" on the basis of knowledge about European history
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. はじめに——本講義の趣旨と進め方について
 2. 古代ギリシアにおける国家と社会
 3. ヘレニズム期における国家と社会
 4. 古代ローマにおける国家と社会
 5. 中世ヨーロッパ世界の形成
 6. 「中世封建社会」(1)
 7. 「中世封建社会」(2)
 8. 中世都市と農村
 9. 皇帝と教皇
 10. 「近世」への推転(1)
 11. 「近世」への推転(2)
 12. イギリス革命(1)*
 13. イギリス革命(2)*
 14. イギリス革命(3)*
 15. 総括と展望

*後期の進行との兼ね合いから、前期では 17 世紀イギリス革命までを扱う
8. 成績評価方法：

試験：100%。
9. 教科書および参考書：

特定のテキストは使用せず、毎回資料を配布する。参考文献としては、全体をほぼカバーするものとして、成瀬治『近代市民社会の成立——社会思想史的考察』東京大学出版会、1984 年、をまず挙げておく。その他、授業の進行に合わせて随時紹介する。
10. 授業時間外学習： 「概論」につき、講義内容は平易を旨とするが、受講者が何らかの理由で本来備えるべき基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主體的な努力が求められる。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし
なし。

科目名：西洋史概論／ European and American History(General Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LB43303, 科目ナンバリング：LHM-HIS204J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目： 近現代ヨーロッパの国家と社会
2. Course Title (授業題目) : State and Society in Modern/Contemporary Europe
3. 授業の目的と概要： 「国家」と「社会」の観点から、近現代ヨーロッパの歴史過程を再検討する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : The theme of this course is to reexamine/reconstruct the processes of modern/contemporary European history from a viewpoint of "state" and "society".
5. 学習の到達目標： ・「国家」と「社会」の観点から、西洋近現代史の展開過程を把握する
・西洋近現代史の知見を元に、諸事象を「歴史的に」捉える思考様式を身につける
6. Learning Goals(学修の到達目標) : ・To grasp the outline of modern/contemporary European history from a viewpoint of "state" and "society"
・To learn the ability to think "historically" on the basis of knowledge about European history
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. はじめに——本講義の趣旨と進め方について
 2. 「イギリス革命」再論
 3. アメリカ独立革命
 4. フランス革命(1)
 5. フランス革命(2)
 6. フランス革命(3)
 7. 国民国家とナショナリズム
 8. 1848/49年革命
 9. 「良き時代」
 10. 世界戦争と総力戦体制
 11. ロシア革命(1)
 12. ロシア革命(2)
 13. 冷戦と脱植民地化
 14. 現代の「革命」
 15. 総括と展望
8. 成績評価方法：

試験：100%。
9. 教科書および参考書：

特定のテキストは使用せず、毎回資料を配布する。参考文献としては、初期近代までをほぼカバーするものとして、成瀬治『近代市民社会の成立——社会思想史的考察』東京大学出版会、1984年、をまず挙げておく。その他、授業の進行に合わせて随時紹介する。
10. 授業時間外学習： 「概論」につき、講義内容は平易を旨とするが、受講者が何らかの理由で本来備えるべき基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし
なし。

科目名：西洋史基礎講読／ European and American History(Introductory Reading)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：有光 秀行

コード：LB32403, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語文献精読

2. Course Title (授業題目)：Reading English Texts on Medieval European History

3. 授業の目的と概要：専門書・論文を読める英文読解力を身につけると同時に、西洋史研究についても理解を深めることを目指します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purposes of the course are developing English reading skills to read articles and books on European and American history, and deepening understandings of European and American history.

5. 学習の到達目標：英語で書かれた専門的論考の読解力を身につけ、西洋史研究への理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aims of the course are developing English reading skills to read articles and books on European and American history, and deepening understandings of European and American history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

中世ブリテン諸島史を論ずるテキストを読む予定です。毎回、所定の箇所の訳稿を授業前日までに提出してもらい、それに基づいて授業を進めていきます。第一回目は打ち合わせ。以後は毎回訳読と解説です。1回あたり.15 行くらいを読む予定です。

8. 成績評価方法：

授業参加状況 (70%) と学期末翻訳レポート (30%)。所定の授業期間に読めなかったテキストの一部を学期末にレポートとして提出してもらい、獲得された読解力について確認します。

9. 教科書および参考書：

読むテキストのコピーを配布、もしくは URL を共有します。

10. 授業時間外学習：所定の箇所の訳を授業前に必ず作成・提出すること。予習でわからなかった箇所、読み間違えた箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：西洋史基礎講読／ European and American History(Introductory Reading)

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

Semester：3 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LB33203, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目： 西洋史研究の基礎
2. Course Title (授業題目)：Introductory Reading for Researching European and American History
3. 授業の目的と概要： 演習形式による文献講読を中心として、西洋史研究に関する入門的指導を行う。使用言語/テキストは主に日本語とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The theme of this course is to read Japanese texts about the European and American History with guiding some basic skills for historical research.
5. 学習の到達目標： 専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To create the basic ability to read and comprehend specialized books/articles, and to learn some basic skills for academic researches.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 ガイダンス：授業の趣旨と進め方について
 2. 歴史学とはいかなる学問か
 3. 歴史研究と史料(1)
 4. 歴史研究と史料(2)
 5. 課題発表(1)a
 6. 課題発表(1)b
 7. 課題発表(1)c
 8. 課題発表(1)d
 9. 専門論文の読み方(1)
 10. 専門論文の読み方(2)
 11. 課題発表(2)a
 12. 課題発表(2)b
 13. 課題発表(2)c
 14. 課題発表(2)d
 15. 中間的総括
8. 成績評価方法：

出席：30%・その他(受講態度、課題の達成度など)：70%
9. 教科書および参考書：

資料等は、基本的にプリント形態で配布する。参考文献等は、授業の進行に合わせて随時紹介する。
10. 授業時間外学習： ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。
研究室：文学研究科5F・539 E-mail: asaoka@tohoku.ac.jp

科目名：西洋史基礎講読／ European and American History(Introductory Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：有光 秀行

コード：LB42404, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語文献精読

2. Course Title (授業題目)：Reading English Texts on Medieval European History

3. 授業の目的と概要：専門書・論文を読める英文読解力を身につけると同時に、西洋史研究についても理解を深めることを目指します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purposes of the course are developing English reading skills to read articles and books on European and American history, and deepening understandings of European and American history.

5. 学習の到達目標：英語で書かれた専門的論考の読解力を身につけ、西洋史研究への理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aims of the course are developing English reading skills to read articles and books on European and American history, and deepening understandings of European and American history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

中世ブリテン諸島史を論ずるテキストを読む予定です。毎回、所定の箇所の訳稿を授業前日までに提出してもらい、それに基づいて授業を進めていきます。第一回目は打ち合わせ。以後は毎回訳読と解説です。1回あたり.15 行くらいを読む予定です。

8. 成績評価方法：

授業参加状況 (70%) と学期末翻訳レポート (30%。所定の授業期間に読めなかったテキストの一部を学期末にレポートとして提出してもらい、獲得された読解力について確認します。)

9. 教科書および参考書：

読むテキストのコピーを配布、もしくは URL を共有します。

10. 授業時間外学習：所定の箇所の訳を授業前に必ず作成・提出すること。予習でわからなかった箇所、読み間違えた箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：西洋史基礎講読／ European and American History(Introductory Reading)

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

semester：4 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LB43203, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目： 西洋史研究の基礎
 2. Course Title (授業題目)：Introductory Reading for Researching European and American History
 3. 授業の目的と概要： 演習形式による文献講読を中心として、西洋史研究に関する入門的指導を行う。使用言語/テキストは主に日本語とする。
 4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The theme of this course is to read Japanese texts about the European and American History with guiding some basic skills for historical research.
 5. 学習の到達目標： 専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得。
 6. Learning Goals(学修の到達目標)：To create the basic ability to read and comprehend specialized books/articles, and to learn some basic skills for academic researches.
 7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 夏季課題発表(1)
 2. 夏季課題発表(2)
 3. 資料・文献の探し方
 4. 課題発表(1)a
 5. 課題発表(1)b
 6. 課題発表(1)c
 7. 課題発表(1)d
 8. 学術論文の作法(1)
 9. 学術論文の作法(2)
 10. 課題発表(2)a
 11. 課題発表(2)b
 12. 課題発表(2)c
 13. 課題発表(2)d
 14. 総括
 8. 成績評価方法：

出席：30%・その他(受講態度、課題の達成度など)：70%
 9. 教科書および参考書：

資料等は基本的にプリント形態で配布する。参考文献等は授業の進行に合わせて随時紹介する。
 10. 授業時間外学習： ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし
後期の講読は、前期からの継続的受講を前提としている。
- 面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。
研究室：文学研究科5F・539 E-mail: asaoka@tohoku.ac.jp

科目名：西洋史各論／ European and American History(Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

Semester：5 単位数：2

担当教員：有光 秀行

コード：LB53301, 科目ナンバリング：LHM-HIS305J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ウィリアム・マーシャルとその世界
2. Course Title (授業題目)：William Marshal and his world
3. 授業の目的と概要：この授業は、「世界で最高の騎士」とたたえられたウィリアム・マーシャルの生涯をたどりながら、ブリテン諸島と大陸ヨーロッパの関係の変化など、12世紀から13世紀初頭の西北ヨーロッパ世界を理解することを目的とします。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this course is to understand the northwestern European society in the twelfth and early thirteenth centuries through the life of William Marshal, 'the best knight in the world'.
5. 学習の到達目標：12世紀～13世紀初頭の西北ヨーロッパ世界におこった大きな変化を理解できるようになることと、歴史の中の人物について理解できるようになることを、目標とします。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aims of this course are understanding .great changes of the northwestern European society in the twelfth and early thirteenth centuries and also understanding people in their historical context.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. 1170年まで (1)
 3. 同上 (2)
 4. 同上 (3)
 5. ヘンリ2世のもとで (1)
 6. 同上 (2)
 7. 騎士の社会 (1)
 8. 同上 (2)
 9. 同上 (3)
 10. リチャド1世のもとで (1)
 11. 同上 (2)
 12. ジョン王のもとで (1)
 13. 同上 (2)
 14. 同上 (3)
 15. まとめ
8. 成績評価方法：

授業参加状況 (50パーセント) とレポート (50パーセント)。
9. 教科書および参考書：

Google Classroom で指示します。
10. 授業時間外学習：指示する参考文献を参照しながら、予習・復習を必ずおこなうこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：西洋史各論／ European and American History(Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 その他

セメスター：5 単位数：2

担当教員：熊野 直樹

コード：LB98815, 科目ナンバリング：LHM-HIS305J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目： ドイツ司法とナチズム責任

2. Course Title (授業題目) : German judiciary and dealing with the Nazi past

3. 授業の目的と概要： 本授業では、ドイツを事例に「法治国家」からナチス「不法国家」への移行過程における司法の役割について検討し、その司法がナチズム責任として戦後東西ドイツにおけるナチズム裁判でどのように裁かれたのかについて検討を行う。以上を通じて、司法と政治との緊張関係について理解を深めるとともに、政治からの「司法権の独立」の持つ意味を歴史的に深めていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : While man often tends to think of Nazi Germany as a zone of lawlessness, the Nazi regime and its policies of persecution were maintained by judges, lawyers and jurists. This course focuses on why German judiciary were attracted to the Nazi Regime, how these legal professionals lent their skills and knowledge to a system of injustice, and whether they were held accountable for their Nazi-era action after World War II.

5. 学習の到達目標： ・ドイツ司法の歴史について学び、ドイツ現代史に関する理解を深める。

・ドイツ司法とナチズム責任について学び、司法（正義）について考える視座を得る。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : To deepen understanding of German modern history by leaning about German judiciary.

To get a perspective to think about Justice by learning about German judiciary and dealing with the Nazi past.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

ドイツ近現代史の概説ではなく、主に裁判所をはじめとしたドイツ司法とナチズムとの関係及び戦後東西ドイツ及び統一ドイツの司法のナチズム責任について論じる。受講者の数や要望等によって、内容・方法が若干変更される可能性がある。

第1回 プロローグ：ガイダンス（授業内容・方法、単位認定の方法等の説明）

第2回 ナチス「不法国家」の成立過程（1）：ヴェーバーの支配の諸類型

第3回 同上（2）：ヴァイマル共和国におけるドイツ司法

第4回 同上（3）：ヒトラーの権力掌握とドイツ司法

第5回 同上（4）：ドイツ司法の強制的同質化

第6回 同上（5）：「合法的支配」から「カリスマ支配」へ

第7回 同上（6）：政治司法としてのドイツ司法

第8回 戦後ドイツにおけるナチズム裁判と「ベルリンの壁」裁判（1）：二つのニュルンベルク裁判

第9回 同上（2）：旧東ドイツにおける司法とナチズム裁判

第10回 同上（3）：旧西ドイツにおける司法とナチズム裁判（上）

第11回 同上（4）：旧西ドイツにおける司法とナチズム裁判（中）

第11回 同上（5）：旧西ドイツにおける司法とナチズム裁判（下）

第13回 同上（6）：統一ドイツにおける「ベルリンの壁」裁判

第14回 現代ドイツ司法とナチズム責任

第15回 まとめと評価

8. 成績評価方法：

第15回の授業時間中に理解度を確認する試験を行う（100%）。

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。レジュメと板書による。参考書及び参考文献は、以下の通り：

ジェーン・キャプラン著、藤井美佐子訳、熊野直樹監修『14歳から考えたいナチ・ドイツ』すばる舎、2023年；田村栄子・星乃治彦編『ヴァイマル共和国の光芒—ナチズムと近代の相克—』昭和堂、2007年；熊野直樹「戦後ドイツにおける戦争の記憶と現在」九州大学法政学会『法政研究』第73巻第2号、2006年（open access）；「東西ドイツ司法と『過去の克服』』『法政研究』第71巻第3号、2005年（open access）。

10. 授業時間外学習： 参考書及び参考文献を事前に読んでおくことが望ましい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

なし。

科目名：西洋史各論／ European and American History(Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：阿部 ひろみ

コード：LB65302, 科目ナンバリング：LHM-HIS305J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目： 中世後期ドイツの政治と社会—帝国都市ニュルンベルクを中心に—
2. Course Title (授業題目) : Politics and Society of the Late Medieval Germany- A Case Study of the Imperial City of Nuremberg
3. 授業の目的と概要： 中世後期ドイツの政治的構造および社会の状況について、主に帝国都市ニュルンベルクのケースを取り上げて説明する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course explains the political structure and the social situation of the late medieval Germany, focusing on the imperial city of Nuremberg.
5. 学習の到達目標： 中世後期ドイツの政治・社会について専門知識を深める。歴史学で研究対象として扱われる様々なテーマについて知識を得る。
6. Learning Goals(学修の到達目標) : The aims of this course are understanding the political structure and the social situation of the late medieval Germany and also learning a variety of themes in the historical research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ヨーロッパ史における中世後期ドイツ
 2. 帝国都市ニュルンベルクとは
 3. ニュルンベルクの市参事会制度
 4. ニュルンベルクの商業
 5. ニュルンベルクの手工業
 6. ニュルンベルクのユダヤ人
 7. ニュルンベルクと教会
 8. ニュルンベルクと教会文化
 9. ニュルンベルクと周辺諸侯
 10. ニュルンベルクと帝国議会
 11. ニュルンベルクと同盟関係
 12. ニュルンベルクと戦争
 13. ニュルンベルクと大学
 14. ニュルンベルクと出版文化
 15. まとめ
8. 成績評価方法：

授業参加状況 (コメントシートの提出) : 40 パーセント・期末レポート : 60 パーセント
9. 教科書および参考書：

授業内で適宜紹介する。
10. 授業時間外学習： 講義内容を復習すること。適宜、授業内で紹介された参考文献や概説書を自ら確認すること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
なし。

科目名：西洋史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：有光 秀行

コード：LB51405, 科目ナンバリング：LHM-HIS312J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中世ヨーロッパ史研究
2. Course Title (授業題目)：Study in the Medieval European History
3. 授業の目的と概要：中世ヨーロッパ史の文献の読解力を養うとともに、研究の最前線に関する知見を深めることが目的です。教室における文献の読解・検討と、レポート作成を、2つの柱とします。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purposes of this course are developing reading skills of articles and books on medieval European history, and learning deeply on historical research. Students are required to read and translate the text below, and also to write a report on medieval European history.
5. 学習の到達目標：さまざまな文献の読解力を獲得するとともに、学界での研究の諸動向を理解し、卒業論文・卒業研究作成にそなえる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The aims of this course are developing reading skills of articles and books on medieval European history, and learning deeply on historical research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
通常授業時間は、英語のテキストを、分担箇所を決めて読みます。事前に担当者が作成した訳文に目を通した上で、授業に臨んでもらいます。第一回目は打ち合わせ、以後は訳読と質疑応答です。また学期末には、西洋史に関し、各人が興味を持つテーマを自ら設定して、それに関連する論文を読みまとめたレポートを提出してもらいます。作成上の指導は随時おこないます。
8. 成績評価方法：
授業参加状況 (50%) とレポート (50%)。
9. 教科書および参考書：
オンライン公開されている、11 世紀イングランドを論じる論文を読む予定です。アクセス方法については初回に説明します。
10. 授業時間外学習：毎回読むテキストの予習・復習をおこなうこと。およびレポート作成のための文献探索・読解を随時おこなうこと。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし

科目名：西洋史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LB54209, 科目ナンバリング：LHM-HIS312J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目： ロシア革命の歴史的再検討
2. Course Title (授業題目) : Advanced Seminar in English: Russian Revolution Revisited
3. 授業の目的と概要： 演習形式による英語文献講読を中心として、ヨーロッパ史研究に関する基本的指導を行う。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The themes of this seminar are to read monographs about the modern/contemporary European history in English, and to guide basic skills for further historical research.
5. 学習の到達目標： 専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、および英語文献の正確な読解。
6. Learning Goals (学修の到達目標) : To upgrade the ability to read and comprehend English text and to develop the basic abilities for academic researches.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について
 2. 試訳の検討と討論 (1)a
 3. 試訳の検討と討論 (1)b
 4. 試訳の検討と討論 (1)c
 5. 試訳の検討と討論 (1)d
 6. 試訳の検討と討論 (1)e
 7. 小括 (1)
 8. 試訳の検討と討論 (2)a
 9. 試訳の検討と討論 (2)b
 10. 試訳の検討と討論 (2)c
 11. 試訳の検討と討論 (2)d
 12. 試訳の検討と討論 (2)e
 13. 小括 (2)
 14. 課題発表
 15. 中間的総括
8. 成績評価方法：

出席：30%・その他(受講態度、課題の達成度など)：70%
9. 教科書および参考書：

開講後発表。
10. 授業時間外学習： ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主體的な努力が求められる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。
研究室：文学研究科5F・539 E-mail: asaoka@tohoku.ac.jp

科目名：西洋史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：有光 秀行

コード：LB61405, 科目ナンバリング：LHM-HIS312J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中世ヨーロッパ史研究

2. Course Title (授業題目)：Study in the Medieval European History

3. 授業の目的と概要：中世ヨーロッパ史の文献の読解力を養うとともに、研究の最前線に関する知見を深めることが目的です。教室における文献の読解・検討と、レポート作成を、2つの柱とします。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purposes of this course are developing reading skills of articles and books on medieval European history, and learning deeply on historical research. Students are required to read and translate the text below, and also to write a report on medieval European history.

5. 学習の到達目標：さまざまな文献の読解力を獲得するとともに、学界での研究の諸動向を理解し、卒業論文・卒業研究作成にそなえる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The aims of this course are developing reading skills of articles and books on medieval European history, and learning deeply on historical research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

通常の授業時間は、英語のテキストを、分担箇所を決めて読みます。事前に担当者が作成した訳文に目を通した上で、授業に臨んでもらいます。第一回目は打ち合わせ、以後は訳読と質疑応答です。また学期末には、西洋史に関し、各人が興味を持つテーマを自ら設定して、それに関連する論文を読みまとめたレポートを提出してもらいます。作成上の指導は随時おこないます。

8. 成績評価方法：

授業参加状況 (50%) とレポート (50%)。

9. 教科書および参考書：

オンライン公開されている、11 世紀イングランドを論じる論文を読む予定です。アクセス方法については初回に説明します。

10. 授業時間外学習：毎回読むテキストの予習・復習をおこなうこと。およびレポート作成のための文献探索・読解を随時おこなうこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：西洋史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LB64206, 科目ナンバリング：LHM-HIS312J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目： ロシア革命の歴史的再検討
2. Course Title (授業題目) : Advanced Seminar in English: Russian Revolution Revisited
3. 授業の目的と概要： 演習形式による英語文献講読を中心として、ヨーロッパ史研究に関する基本的指導を行う。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The themes of this seminar are to read monographs about the modern/contemporary European history in English, and to guide basic skills for further historical research.
5. 学習の到達目標： 専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、および英語文献の正確な読解。
6. Learning Goals (学修の到達目標) : To upgrade the ability to read and comprehend English text and to develop the basic abilities for academic researches.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について
 2. 試訳の検討と討論 (1)a
 3. 試訳の検討と討論 (1)b
 4. 試訳の検討と討論 (1)c
 5. 試訳の検討と討論 (1)d
 6. 試訳の検討と討論 (1)e
 7. 小括 (1)
 8. 試訳の検討と討論 (2)a
 9. 試訳の検討と討論 (2)b
 10. 試訳の検討と討論 (2)c
 11. 試訳の検討と討論 (2)d
 12. 試訳の検討と討論 (2)e
 13. 小括 (2)
 14. 課題発表
 15. 総括
8. 成績評価方法：

出席：30%・その他(受講態度、課題の達成度など)：70%
9. 教科書および参考書：

開講後発表。
10. 授業時間外学習： ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主體的な努力が求められる。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし
面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。
研究室：文学研究科5F・539 E-mail: asaoka@tohoku.ac.jp